岩手県立住田高等学校

樂水樂山（らくすいらくざん）

令和３年９月 15 日
（第136号）

「森の保育園」ボランティアの様子　↑

「すみたおたすけ隊」ボランティアの様子　↑

―住田高校ボランティア特集―

住田高校ではボランティアを推奨しています。ボランティアをとおして、学校では体験できないことを体験し、生徒たちのこころの成長にとても役立つと考えるからです。新型コロナウイルスの影響により中止となったボランティアもありましたが、以下にこれまでのボランティア活動を紹介します。

月　　日（曜日）	住田町ボランティア名称	参加者数
５月１４日（金）	森の保育園ボランティア・春	５人
７月　９日（金）	森の保育園ボランティア・夏	５人
７月２２日（木）	すみたおたすけ隊・夏	１４人

生徒たちのボランティアの様子を社会福祉作文コンクール（住田町社会福祉協議会）に応募した生徒たちの文章の中から紹介します。

ボランティアとは何か？

３年Ａ組　佐々木　愛花（ささき　あいか）さん
「はじめて参加したボランティアで一番印象に残っている言葉があり、今でも活動する前にスタッフの方がおっしゃっている言葉です。それは、**『ボランティアはしてあげるものではなく、させていただいているのだという気持ちでする』**という言葉です。この言葉を聞いたとき、私は『してあげる』という考え方がいかに失礼なのだろうかと思いました。確かにボランティアをしてあげているように感じるかもしれませんが、活動する場所にお邪魔し、生活空間の中に短時間でも割り込むのだから、上から物事を言うような活動ではないのだと感じました。この『すみたおたすけ隊』という活動に参加した事で、ボランティアとは『してあげるものだ』という考えを改める機会を得ました。」

この佐々木愛花さんのように、生徒たちは学校以外の人々と接する体験をすることで成長していく姿が見られます。「すみたおたすけ隊」では、生徒たちは実際にどのような活動をしたのでしょうか。ボランティアの様子を書いた文章の中から紹介します。

２年Ａ組　岡﨑　海樹（おかざき　かいき）さん
「やってきたボランティアは、窓ふき、（網戸の）レールの掃除、クモの巣取りなどの作業をやってきた。窓ふきでは、霧吹きを使い窓に洗剤を付け、窓ふき用の棒を使い洗剤を広げ、広げた場所の水拭きをしてから窓を拭きました。バケツがひとつしかなかったので、水が乾いたらその場所に行きまた水を付けるの繰り返しでした。窓ふきは移動が多く、足が痛くなりました。レール拭きでは、高いレール、低いレール、桟（さん）など、雑巾で掃除をした。レールにたまっていた土はブラシを使い、土を払い、雑巾でレールを拭くの繰り返し作業を行った。高い場所にあるレールは梯子（はしご）を使って掃除した。思ったとおりに作業ができなかった。レール拭きが終わると、今度はクモの巣取りを行った。クモの巣取りは、生きているクモもいれば、えさだけ残っている巣もあった。生きているクモがいる巣は、ほうきにクモが付くので、ほうきを振り回してクモを追い払った。クモがいない、えさだけの巣は簡単に取り除くことができた。」

２年Ｂ組　川下　絢菜（かわした　あやな）さん
「最初に窓掃除をしました。私は背が小さく、上の汚れている部分が気になったけど届かなくて、同級生の子にかわってもらいました。そして、とてもピカピカになり、次の窓に行こうとしたけれど、次の窓も場所がちょうど届かないところにあり、そこも同級生にかわってもらいました。他に私ができることはないかなと思い探していると、玄関がとても汚れていたのでそこを拭きました。そして、拭き終わったらとてもピカピカになり、自分でもびっくりするくらいきれいになりました。そして、他に汚れているところがないかなと探している時に、外に置いてある物がとても汚れていたので、それを拭きました。そして、そこもとてもきれいになりました。たくさん掃除をして疲れてしまったけれど、頑張りました。」

生徒たちがとても一生懸命に掃除をしてくれた様子が伝わってきます。
ボランティアが終わった後の生徒たちの様子も紹介しましょう。

３年Ａ組　細田　梨瑚（ほそだ　りこ）さん
「若い人たちが地元を離れていく中で、私たち高校生ができる事を探し、高齢者とふれあい、地域の人とのふれあいの機会をつくることが若い世代の役目ではないのかと、活動をとおしてさらに思いました。
―中略―
高校生活最後の活動ではありましたが、これからの進路、将来に向け、３年間のボランティア活動を活かし、今後も続けていきたいと思います。
―中略―
人の役に立つことは難しいことではありますが、**どんなに小さなことでも、助けたり助けられたりすることで心があたたかいものへと変わることができるのは大切な事**だと思います。

２年Ａ組　鎌田　祥輝（かまだ　しょうき）さん
「窓ふき、クモの巣取り、網戸のレールの掃除などが終わり、集合場所の農林会館に戻ろうとした時、訪問先の方に『次も来てほしい』と言われたことが一番嬉しかった。―　中略　―　そんな感じで農林会館に戻った後に感想を発表して振り返り会が終わり、集合写真を撮り、ボランティア活動が終わった。」

２年Ａ組　菅野　咲（かんの　さき）さん
「私がこの『すみたおたすけ隊』に参加して学んだことはたくさんありますが、特に学んだことは高齢者とのコミュニケーションなどです。私が手伝いに行ったところはコミュニケーションができなかったけれど、『ありがとう。助かったよ』などの言葉がありました。窓ふきは簡単かなあと思っていたけれど、難しくてとても疲れました。窓が多くて、作業するのが大変でした。１つ１つの窓をきれいにするために洗剤や歯ブラシを使って掃除をしました。そうしたら、とてもきれいになりました。この『すみたおたすけ隊』に参加して良かったなとあらためて思いました。」

最初は不安だった人も、最後には良かった思える体験になったようです。

先生方から勧められて参加した生徒たちもいましたが、どのように自分の考えが変化していったのでしょうか。

２年Ａ組　佐藤　愛華（さとう　まなか）さん
「昨年は参加しなかった『すみたおたすけ隊』、今年参加するという形になったのは、部活動の監督からの提案でした。いつもお世話になっている地域の方々に感謝を込めて、そしていつも『住田高校野球部』を応援してくださる地域の方々に今度は私たちからできることはないかと思い『すみたおたすけ隊』に参加しました。―中略―　私は、コミュニケーション能力がなく目上の方と話をするのが苦手でした。ですが、たくさん話しかけてくださり、話をすることができました。これからは、自分からも積極的にやっていけたらいいと思います。話は変わりますが、最近コミュニケーション能力が上がったなと感じることがあります。『すみたおたすけ隊』を機に徐々に知らない人にでも話しかけることができてきたなと思います。『すみたおたすけ隊』に参加して良かったなと思います。来年も参加したいと思います。」

２年Ａ組　髙木　琴加（たかき　ことか）さん
「中学生の頃は参加していましたが、ほとんど毎年の恒例行事のような参加だったので、『自分から』といったことはありませんでした。住田高校ではボランティア活動をたくさんやっているみたいだし、私も入ったら参加してみようと中学の頃は思っていました。実際、高校１年生になり、ボランティアの参加申込書を見て、自分が思っていた以上にたくさん活動していて難しそうだし不安だなあと思い、結局１年生の時はボランティア活動に参加しませんでした。ただ、私のクラスの人にはボランティアに参加する人がちらほらいて、参加した人にどうだったかを聞いてみたら、『楽しかった』『疲れたけど良かった』と答える人が多かったです。それを聞いて、自分は難しく考えすぎていたんだなと思い、２年生になったらひとつでもよいから参加しようと思い、今回おたすけ隊に参加しました。そして、実際に参加してみて、掃除をして、家の方からのお礼を聞いた時、すごく良い気分になり、参加して良かったなあと感じました。今回ボランティアに参加してみて、思っていた以上に楽しかったので、誰かのために頑張るのも良いなと思いました。来年は今年以上にボランティア活動に参加しようと思います。」

「すみたおたすけ隊」は主に高齢者のご自宅を訪問し、清掃活動などのボランティアをするものですが、「森の保育園」ボランティアにも本校生徒たちは取り組んでくれています。「森の保育園」とはどのようなボランティアなのか紹介しましょう。

３年Ａ組　細田　梨瑚（ほそだ　りこ）さん
「『森の保育園』とは、年４回春、夏、秋、冬の季節ごとに住田の案内人の方と、住田高校生が園児と一緒に種山ヶ原で行われ、森林に親しむことを目的とした森林環境学習です。森の案内人のみなさんから、危険な動植物等の説明を受け、園児と散策をします。『トロルの橋』と呼ばれる木道、園児たちに大人気の場所を園児と楽しく花を摘み、鬼ごっこをして遊ぶうちに園児と少しずつ馴染んで楽しい時間を過ごしました。

それでは、森の保育園の様子を紹介しましょう。３年Ａ組の佐々木若奈（ささき　わかな）さんは、自分が園児だったときに、当時の高校生のお姉さんやお兄さんと一緒につくった思い出がボランティア活動に参加した大きな理由になっているようです。

３年Ａ組　佐々木　若奈（ささき　わかな）さん
「当時の私たちをお世話してくれた人たちは、住田高校のお姉さん、お兄さん達でした。まだ幼かった私は、そんな住田高校のお姉さん、お兄さん達に憧れていました。住田高校のお姉さん、お兄さん達は、背が大きいだけでなく、私達を優しく見守ってくれたり、最後まで一緒に楽しんでくれる、本当にいい人達でした。私もいつか、住田高校のお姉さん、お兄さん達みたいに、みんなを楽しませてみたいとずっと思っていました。そして、住田高校に入学して、高校１年生の時にはじめて、春の森の保育園ボランティアに参加しました。
―中略―
種山の散策が始まった時に、園児達と手を繋（つな）ぎました。その時の感触と感覚は今でも覚えています。握った瞬間、とてもあたたかく、小さくて、かわいい手でした。園児と歩いている時は、常に園児達の安全に注意しながら、できるだけ園児達と同じ目線になって歩くことを意識しました。高校生の立場になって、園児達の世話をすることはとても大変だということをあらためて実感しました。当時の私も、これくらい迷惑をかけていたのかなあと思いました。」

２年Ａ組　佐藤　愛華（さとう　まなか）さん
「森の保育園で嬉しかったことが３つあります。１つ目は、私の知っている園児に会えたことです。コロナでなかなか会えることができませんでしたが、私のことを覚えていてくれて、前日には、私と会えることをずっと楽しみに待っていたと聞いて本当に嬉しかったです。なんて可愛いんだと思いました。山を登っている時に、「好き」って言ってくれてすごい可愛かったです。」

このようなボランティア活動をとおして養ったボランティア精神は、現在の日本社会の見方にも変化をもたらしています。

１年Ｂ組　小野　恒臣（おの　こうしん）さん
「私は今、コロナ禍で思うことは、医療従事者への感謝の思いです。医療従事者の人達は、コロナウイルスに感染してしまった人を毎日治療しています。しかも、コロナウイルスは感染力が強いので、たくさんの人が感染してしまうかもしれないし、自分も感染してまわりの人にうつしてしまうかもしれないという恐怖があります。それなのに、医療従事者の人達は一生懸命コロナに立ち向かってくれます。医療従事者の負担を減らすために、自分達はコロナウイルスにかからないように気を付けなければなりません。
―　中略　―
私にとって、新型コロナウイルスはとても怖く憎い存在です。ですが、この新型コロナウイルスのおかげでいろいろなことを知り、感じ、考え、経験できています。コロナウイルスの影響で私達の生活は大きく変わってしまいました。**当たり前にできていたことが当たり前にできなくなり、いかにこれまでの生活が幸せだったのかと知りました。**そして今、私達が勘違いしてはいけないと思うことは、私達が戦うのは人ではなく、コロナです。感染というリスクを背負いながらも働いてくださっている方々に感謝をして、自分に何ができるのかを探して行動していきたいと思います。」

１年Ｂ組　大澤　那緒（おおさわ　なお）さん
「オリンピックで活躍した選手から私達は元気や勇気をもらいました。同様に、私達が医療従事者にできることは、マスクなしでの会話をせず、日々の感染対策をして新たな感染者を減らしていくことが医療の方々への恩返しだと私は思います。」

１年Ｂ組　菅野　良稀（かんの　らき）さん
「少子高齢化が進んでいます。その中でも、地域の行事が少なくなってきています。行事が少なくなると、伝統など地域の大切なものが伝えられなくなったりすると思います。自分は高齢者の少しでも支えになったらなと思いボランティアに参加しました。少子高齢化が進んでいる今、一人で住んでいる高齢者の家に行って掃除をしました。そして、今も新型コロナウイルス感染症の拡大は収まりません。そのためには、今生きている人達が一丸となって対策や互いに支え合う関係を作ることが大切だと思います。誰かがコロナウイルスに感染したら誹謗中傷をするのではなく、思いやりのこころを持ち互いに支え合えたら良いと思います。自分はこれまでたくさんの人達に支えられてきました。これからは、自分が積極的に困っている人を助け、**互いに支え合える社会を目指しがんばっていきたい**と思います。」

―　今後も生徒たちの成長を楽しみにしていきたいと思います　―